

写真③



▲横須賀市で行われたインターハイレスリング競技大会の会場の様子 (8月2日～5日)

表②赤れんがカップジュニアスポーツ大会の開催実績

年度	開催日	大会名	備考
25年度	6月15日・16日	ジュニアソフトテニス大会	295人参加
	8月10日・11日	ミニバスケットボール大会	338人参加
	9月7日・8日	小学生バレーボール交流大会	250人参加

写真⑤



▲利便性向上のため整備が進む文化公園体育館

写真④



▲次年度開催のあいさつをする市長 (ジュニアクイーンズカップ、4月6日 =東京都)

写真②



▲トップアスリートの活躍に触れる (昨年度のbjリーグ公式戦)

シリーズ市政の「今」第15回

スポーツ振興

スポーツ振興と地域活性化のまちづくり

スポーツの普及や交流は、健康増進や心身の充実を図るだけではなく、本市を全国に広く知っていただく絶好の機会です。そのため、市ではさまざまなスポーツの大会誘致を進め、スポーツを軸とした交流機会の拡大による地域の活性化に努めています。シリーズ市政の「今」。第15回は、スポーツを活かした交流人口増加への取り組みについてお知らせします。

スポーツイベント開催による活性化

10月13日、多くのランナーとサポーター、関係団体、沿道から声援をいただいた市民の皆さんの協力で「舞鶴赤れんがハーフマラソン2014」が行われ、ランナー一人ひとりに数々のドラマが生まれました(写真①)。

この大会は、昨年の市制施行70周年の記念事業として開催し、多くの参加者から高い評価を得たため本年も継続して実施したものです。国の重要文化財で近代化遺産の赤れんが倉庫群をはじめ、海上自衛隊の護衛艦やヘリコプターを間近に見ながら疾走できるという全国でも例を見ないユニークなコースに、多くの市民の皆さんを含め全国から集まった1,770人のランナーが潮風と声援を受けながら赤れんがのまちを駆け抜けました。

スポーツに触れる機会を子どもから

プロスポーツイベントなどの技術水準の高い大会の開催は、競技者にとって最高の手本となり、技術力や夢の実現へ向けた意識の向上につながります。また、市民の皆さんのスポーツに対する関心を高め、観戦する人々の来訪にも大きく寄与します。このため、市ではトップアスリートの活躍に触れられるスポーツイベントや各種目の全国大会などの誘致活動を積極的に進め、その開催を支援しています(表①、写真②)。

また、幼少期から少年期にかけてのスポーツ体験は、心身の健全な発達に大きな影響を与え、生涯にわたり豊かなスポーツライフを築く基盤となります。そのため、昨年度からは、より広域的に他府県との交流を推進し、スポーツと観光をマッチングさせた滞在型の大会を「赤れんがカップ」と位置付けて支援。市外のチームが参加する宿泊を含んだ2日間以上のジュニアスポーツ大会の開催経費に対して助成し、その育成機会の充実と交流人口増加による地域の活性化に取り組んでいます(表②)。

全国高校総体を契機に

平成27年夏には、「全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」が近畿で開催され、本市ではレスリング競技が実施される予定です。この大会は、レスリングの高校日本一を決める大会であり、選手・役員を含めた延来訪者数が約1万1,000人を超える非常に大きな大会です(写真③)。

また、インターハイのプレ大会として、来年4月には「ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会」の開催が予定されています。この大会は20歳以下の女子の大会で、15歳から20歳までの世界選手権の選考大会の1つに位置付けられており、過去にはオリンピックを3連覇した吉田沙保里選手や伊調馨選手が優勝し、世界へ羽ばたいています。この大会では、延4,500人の来訪者が見込まれます(写真④)。

市では、この大会が一過性のものとならないよう、ちびっ子レスリング教室の開催や大学レスリング部の合宿誘致、姉妹都市のナホトカ市とのレスリング競技を通じた交流など、レスリング競技を本市に根付かせるための取り組みを進めています。

写真①



▲全国から集まったランナーが疾走 (赤れんがハーフマラソン2014)

表①スポーツイベントへの支援実績

年度	開催日	大会名	備考
24年度	7月13日～16日	全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会	32チーム、約700人出場
	10月27日・28日	bjリーグ京都ハンナリーズ公式戦	観客約1,480人動員
	11月30日～12月2日	全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会	28チーム、約500人出場
25年度	5月25日・26日	近畿ソフトテニス選手権大会	110ペア、220人出場
	10月26日・27日	bjリーグ京都ハンナリーズ公式戦	観客1,499人動員

このほかにも、日本レスリング協会に対してジュニアクイーンズカップの本市での継続開催を働き掛けるなど、「スポーツ振興によるまちづくりの推進」を広く全国に発信しています。

誘致受け入れの環境整備

市では、今後も大会の誘致などスポーツによるまちづくりの推進を図るため、本年10月から来年2月までの間、文化公園体育館の大規模な改修を行っています。これは利用される皆さんの安全確保や利便性の向上を図るため、大屋根改修や吊り天井の撤去など施設の長寿命化対策に取り組むものです。また、併せてアリーナにエアコン設備を導入し、交流人口拡大に向けた施設面での環境整備を図っています(写真⑤)。

市民の皆さんとのチームワークで

これからは市では、ふるさと舞鶴の将来に夢と希望があふれ、「スポーツによる元気なまち」の実現と「スポーツで訪れてよし」のおもてなしに満ちたまちづくりを市民の皆さんとのチームワークで進めていきます。

